

SNS におけるコミュニケーションでの絵文字の付与が悲しみの感情伝達効果に及ぼす影響の検討

○石田達哉¹・武田知也¹

(¹人間環境大学総合心理学部総合心理学科)

問題と目的

非対面型コミュニケーションを円滑に進めるために重要なことは発信者の意図を受信者に正確に伝達することである(高橋ら, 2022)。先行研究からわかる通り,書き手の感情を読み手側に正確に伝えることは SNS などの非対面型コミュニケーションにおいて重要である。なぜなら非対面型コミュニケーション下で感情の伝達が正確に行われなかった場合,送受信者間での言葉の解釈の違いがトラブルに発展する可能性が高まるためである。

本研究では感情の解釈の齟齬によって問題に発展しやすいと考えられるネガティブ感情の中でも悲しみ感情に焦点を当て,送信者側の感情を受信者側に正確に伝える効果である感情伝達効果(高橋ら, 2022)に絵文字が与える影響を検討する。

方法

参加者:18 歳から 23 歳までの大学生 124 名(男性=26, 女性=96, その他=2, 平均年齢=19.59)を対象として研究を行った。

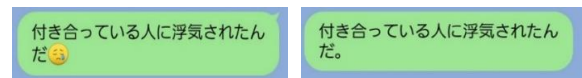
調査材料:本研究では白井・鈴木(2013)で作成された悲しみの分類場面 6 場面(死別, 家族関係, 恋愛における別離, 自己の怪我・病気, 目標の達成の失敗, 孤独)とそれに対応する各 6 エピソード計 36 項目の中から, 孤独を除いた 5 場面 30 項目を研究に使用した。孤独を除いた理由としては, 同じく白井・鈴木(2013)の研究で示された悲しみの 2 次元構造(対自己-対他者, 対処可能-対処不可能)において他の 5 場面と独立して分類されなかったため, 本研究では扱わないこととした。

マッチングアプリやインターネットの普及による恋愛観の変化, また白井・鈴木(2013)の研究が 10 年以上前であることを踏まえ, 予備調査を実施し, 現代の恋愛観に沿ったエピソードを収集した。これらを KJ 法で分類し, 現在の恋愛関係での悲しみを反映した 6 項目を新たに作成した。さらに, 白井・鈴木(2013)の 4 場面とあわ

せた計 30 エピソードをもとに, 悲しみを伝える LINE の文章を作成した。

なお, 絵文字の影響を検討するため, 涙を流している絵文字を文末に付与した質問紙 a と文末に句読点を付与した質問紙 b を作成した。

図 1 恋愛に関するエピソード項目



手続き:参加者に質問紙 a, b をランダムに配布し, 悲しみエピソードを LINE で友人に送信する場合と友人から受信した場合の両方の場面を想定してもらい, 送受信どちらの場合も送信者がどの程度悲しみを感じるかを 0 点~100 点(全く悲しみを感ぜない~非常に悲しみが強い)で回答してもらった。感情伝達効果は送信者側の個人得点-受信者側の平均得点の絶対値とした。1 項目ごとに感情伝達効果を算出し, 各悲しみ喚起場面を構成する 6 項目の合計点をその喚起場面の感情伝達効果とした。絶対値が小さいほど感情伝達効果が高く, 送信者側の悲しみが受信者に正しく伝わっていると解釈した。

結果

HAD を用いて, 絵文字の有無を独立変数とし, 各場面の感情伝達効果を従属変数とした対応のない t 検定を行った。その結果, 研究で用いた 5 場面の内, どの場面においても有意差は確認できなかった。

考察

本研究では, 絵文字の付与が LINE 上での悲しみに関する感情伝達効果に影響を及ぼすかを検討した。その結果, 絵文字の付与は悲しみの感情伝達効果に影響しないことが明らかとなった。

その理由として, 悲しみに関しては, 内容の深刻さに意識が向き, 絵文字の有無が影響しなかった可能性が考えられる。一方で, 本研究で使った SNS が LINE のみ, 絵文字も 1 種類のみであったため, 他のツールや絵文字では異なる結果となる可能性がある。